

園児ら掘り出し物探し

秋田市の「大バザー」にぎわう
幼稚園



バザー会場でお気に入りのおもちゃを探す園児

秋田市新屋のルーテル愛児幼稚園（佐藤聡太郎園長）で2日、「大バザー」が開かれ、雑貨の販売や園児が制作した作品の展示などが行われた。

会場は掘り出し物探しなどを楽しむ園児や保護者、地域住民らでにぎわった。

バザーには、園関係者の家庭から集めた使われていないおもちゃや絵本、食器など計約千点が並んだ。子どもたちはたくさんのおもちゃや雑貨の中から気に入ったものを見つけて、家族に「これがほしい」とおねだりをしていた。

佐々木万旺ちゃん（6）は恐竜や動物のフィギュアなどを10個ほど購入。「たくさんのおもちゃの中から好きなもの

を見つけてることができてうれしい」と笑顔で話した。

会場では協賛店などが飲食物を販売。同市浜田の「館の丸食堂」のブースでは、年長園児が今年6月に園内で手作りしたみそを使った豚汁を提供し、園児や保護者からの人気を集めていた。

同園のほか、子ども発達支援センター・オリブ園、グリーンローズ保育園などの共催で毎年開催。売り上げの一部は、市内の福祉施設への寄付金や能登半島支援の義援金に充てる。

（出澤陽立）